

2025
February
2
No.1145

広報

このまちを、もっと好きになる

ふくちやま

Fukuchiyama City Public Relations

いがいと!
福知山

わ
が
星

市民演劇

少女の一生と星の一生。
時報で奏でるラップ・ミュージカル。

2月23日・24日
厚生会館
入場料無料



特集

— わがまちで創り上げる舞台 —
今、幕が上がる

P.7

安全確保を最優先した花火大会を
花火大会の検証結果を受け取り
2050年ゼロカーボンシティ実現に向けて
脱炭素プラットフォームを設置

市民で創り上げる舞台「わが星」の出演者（厚生会館にて）

特集 今、幕が上がる —わがまちで創り上げる舞台—



稽古の様子

「わが星」とは

人が生まれてから死ぬまでの約100年、星が誕生してから消滅するまでの約100億年。時報を合図に、団地で暮らす一家と星の一生を重ね描いた、柴幸男の代表作。第54回岸田國士戯曲賞受賞作。

(出典:劇団ままごとホームページ)

中には小学生もいますが、80分間のセリフを暗記して本番に臨みます。また、「わが星」は、舞台づくりを通して地域の文化活動に参加するきっかけにもなっています。公演の練習を重ねるうちに、地域の演劇サークルに興味を持ち、加入を決めた人もいます。

新たな文化活動の担い手が生まれつつある「わが星」。市民の皆さんが創り上げる舞台を見に来ませんか。

多くの作品の中から「わが星」を選んだ理由の一つに、「作品全体が時報のリズムに合わせて進むため、音楽を聞く感覚でセリフを考えられる」と、いつの間にか深いテーマに引き込まれていく不思議な作品です。作品内には様々な「例え」が登場しますが、それぞれの意味に気づいた瞬間、きっと涙してしまうのではないでしょうか。

問わず全国各地で上演が行われていますが、京都府北部での上演は本市が初めてです。「わが星」は、明るいダンスとラップに夢中になっていると、いつの間にか深いテーマに引き込まれていく不思議な作品です。作品内には様々な「例え」が登場しますが、それぞれの意味に気づいた瞬間、きっと涙してしまうのではないでしょうか。

市民が主役の「わが星」

京都府北部では初の上演

キャストのみなさん (A公演とB公演で出演者が異なります。日程は5ページ)



「わが星」への参加 勧めてくれてありがとう



田中久留珠さん

少しづつ踊れるようになります。今はみんな動きを合わせるのが楽しいです」と振り返ります。ダンスの中には田中さんが考えた振り付けもあるそうです。

練習を通してできた たくさん経験

上豊富小学校4年生の田中久留珠さんは「お母さんに勧められて、『わが星』に挑戦しました」と話します。

「学校の学習発表会で先生に『女優みたい』と褒められたことがあります。初めての練習ではみんな緊張で静かでした。でも、少しずつ話しかけたりするうちに、だんだんと友だちができました」

田中さんが一番苦労したのはダンスの練習でした。

「ダンスは初めてで、最初は全然できなくて悔しかったです。家で練習を重ねるうちに『わが星』の演出をしてほしい、とお話をいただいた時、参加者の年齢や経験の幅が広いことに驚きました。演劇未経験者が多いため、演技力に頼る部分はここぞという部分のみに絞り込みながらも、出演者から出たアイデアはなるべく作品に反映し、「自分たちの舞台」という意識を持ってもらえるようにしています。

厚生会館のホールの形状に合わせ、特設の舞台を設置するなど舞台空間を工夫しました。市民自らが参加することもあり、福知山でしか見られない舞台といえるでしょう。さまざまな仕掛けに乗って繰り広げられる舞台上の日常生活が、きっとあなたの何気ない日常生活の輝きを教えてくれます。



休憩中の田中さんとメンバーの皆さん。
終始和やかな雰囲気で稽古が進む。

「振り付けが採用されたときは驚きました。「私の振り付け本当にいいのかな」と思いましたが嬉しかったです。みんな一生懸命演じるので、ぜひ観に来てください。それから、お父さん、お母さん、『わが星』は色々な人と友だちになれてとても楽しいです。勧めてくれてありがとうございます。」

社会人の原田翔さんは、学生時代に演劇部に参加していった経験から、「わが星」への参加を決めました。

「市役所が主催するので簡単なものだろうと考えていましたが、実際は芝居もダンスもかなりハードでした。特に難しいのはラップ風に単語やセリフを歌うシーンです。10代のメンバーは飲み込みが早いことによっても驚きました。私も負けずに頑張らないと」

そして、「わが星」は、單なる練習と発表の場だけではないと話します。



原田 翔さん



練習する原田さん。原田さんは、「構成が難しめの演劇ですが、何かを感じとって帰ってもらいたいです。そのために表情や、動き、言葉の抑揚を考え、精一杯表現します」と話す。

福知山版「わが星」のみどころ

／ プレ公演観覧者の声 ／

初めて舞台を見ましたが、皆さん息ぴったりで凄かったです。本番も絶対観に行きます。

舞台の上の役者の人たちは、凄く輝いて見えました。

熱演と脚本のリズムにだんだんと引き込まれていきました。どなたの演技も見応えがありました。

出演者それぞれの個性が、自然な感じで舞台に溶け合って素敵な舞台でした。

「わが星」の公演日程

☆上演日時

	11時	15時	19時
2/23(日・祝)		A 公演	B 公演
2/24(月・振)	A 公演	B 公演	※

※2月24日(月・振)11時の公演は、小さなお子様連れも安心して楽しめる公演です。詳細は下記二次元コードからご覧ください。

☆会場…厚生会館

近隣の有料駐車場をご利用ください。厚生会館前の駐車場は、身体障害者や関係者用の駐車場となります。

☆料金…無料(予約が必要)

予約は二次元コードから。空席がある場合は予約なしでも入場できます。スマートフォンからの予約が難しい人は厚生会館(TEL・FAX22-4955)へ

予約はこちら

公演の詳細は
こちら

わが星

厚生会館に観に来てください！

5 Fukuchiyama 2025.2

2025.2 Fukuchiyama 4

令和7年二十歳を祝う会



1月12日(日)、三段池公園総合体育館で「令和7年二十歳を祝う会」が行われました。当日は穏やかな気候に恵まれ、晴れやかな振袖や羽織袴、スーツなどに身を包んだ586人が、2階席から家族などが見守る中、二十歳への意気込みを新たにしました。



式では、二十歳を代表して塩見咲希さんと杉山恭一さんが「福知山市民憲章」を朗読。岡野叶夢むちゃん、福田夏夢さんが、二十年間お世話になつた家族への感謝、二十歳としての自覚や責任、そして、ふるさと福知山への思いなどを述べました。式後、会場を出た参加者は、旧友たちとの再会を懐かしみ、互いに写真を撮り合うなど、喜びにあふれた一日となりました。



福田夏夢さん 岡野叶夢さん



二十歳のみなさん
おめでとうございます



12/27 新年迎えるためにピカピカに
フクレル2号館のSL 年末清掃を実施

福知山SL保存会の皆さんが、広小路通りの福知山鉄道館フクレル2号館に展示されているSL「C5856」を清掃しました。同会会長の松山美昭さんは、「今年はフクレル1周年ということで、たくさんの方が訪れられました。綺麗にして来年も見てもらいたいと思います」と話し、油などで車体を隅々まで磨いていました。



1/19 テレビで見た有名選手と勝負!
はづらつママさんバレーボールin福知山

福知山のバレークラブのFクラブ、あすなろクラブ、F.U.N.I.T.Eが狩野舞子選手をはじめ元日本代表など12名のドリームチームと試合しました。各チーム、有名選手との白熱した試合を繰り広げ、得点が決まるごとに大きな歓声が上がりました。本事業は宝くじの社会貢献広報事業で実施しました。



1/12 防災への決意を新たに
令和7年 消防出初式を開催

市民の皆さんとともに「安全で安心して暮らせる災害に強いまちづくり」をめざし、消防出初式を開催しました。式典のち、広小路通りを中心に行進し、水難救助訓練や消防団員271人、消防車両36台の分列行進、一斉放水などを披露し、その勇姿を見守る人々とともに、防災への決意を新たにしました。

Follow me!



(旧Twitter)



note



まちの情報、SNSでも発信しています

シリーズ
福知山の文化財
収蔵資料紹介 ⑧

「水筒」
福知山市教育委員会 所蔵



方位磁石付



アルマイト製



竹製

水は、人が生まる上でかかせないものです。人々は、水を携帯するための容器として、昔から自然にあるものを工夫し利用して水筒を作り出してきました。例えば、中国などの遊牧民族は動物の皮革を使い、水筒を作っていました。日本では、写真①のような竹筒やひょうたんが用いられていたそうです。明治30年（1897）頃には、アルミ製の水筒が登場します。軽くて丈夫なアルミ製の水筒は、当時軍事工場で生産され、軍隊の行軍における必需品でした。戦時下において水筒は、まさに命を支える道具として携行されました。写真②の水筒は、アルミそのものの表面を酸化させたアルマイト製です。蓋の部分に注目すると、方位磁石が付いていることがわかります。また、革の紐が付いており、肩から斜めにかけられる仕様です。

昭和30年代以降になると、水筒は大きく変化し、行楽や遠足など楽しみと結びつく道具になります。例えば、二重構造で保温・保冷効果のあるガラス製「魔法瓶」や、軽くて持ち運びのしやすいプラスチック製、丈夫なステンレス製の水筒が普及し始めました。昭和40～50年代にはテレビや漫画のキャラクターを描いたものも多数登場し、コップを使わずに飲めるストロー式の水筒も流行しました。

現在はペットボトル飲料が普及し、以前より水筒を持ち歩くことが少なくなったといわれています。しかし、世界情勢を見てみるとSDGsの観点が広がっており、マイボトルとして水筒が見直されてきています。保温・保冷などの機能はもちろんですが、デザインもお洒落なものがたくさんあるので、こだわりを持って水筒を選んでみてはいかがでしょうか。

■文化・スポーツ振興課

TEL 24-7000・FAX 23-6537

2025年2月号 第1145号
令和7年2月6日発行

〒620-8501
京都府福知山市字内記13 番地の1
TEL.0773-22-6111(代表)
FAX.0773-23-6537

ふくちやまに
ドッ恋せ。

(編集後記)

2月号の特集は「わが星」です。舞台やミュージカルが好きな私にとって、取材はとてもわくわくする時間でした。出演者の皆さんには9月から練習を重ねているだけあり、仲が良く和やかな雰囲気でした。本番まであと2週間。皆さん緊張されているのかなまだ大丈夫かな、なんて思いながら記事をまとめています。記事の内容を考える中で、演劇雑誌やフライヤーを参考にしましたが、改めて舞台芸術作品の多さに圧倒されました。観たくても、チケットを取るのも難しかったり、再演の情報がなかったりと、なんとも悩ましい問題です。さて、「わが星」は今月に福知山で開催、入場無料です。まだ演劇を観たことがない人们にも、身近な人が演じるこの作品を楽しんで欲しいです。取材中に少し泣ぐてしまうほど、ぐっとくるシーンがありました。どこのシーンかは...内緒です。(芦田)

ぶらり #いがいと福知山



いがいと!
福知山

市公式インスタ

皆さんのが見つけたステキな場所や暮らし＝「いがいなステキ」を紹介します。あなたもインスタグラムの投稿に「#いがいと福知山」を付けて福知山の魅力をシェアしませんか？

問秘書広報課 (TEL 24-7000・FAX 24-7023)



naoyuki_shudou #雪大文字



ttsz9505 #大江山口内宮駅



n.i.c.o.s.u.k.e_ #雪景色



hiroki.kano #宝山

1月号表紙の没カットを紹介します
#漆の木と器